

一人一人の児童が、友達・教職員・保護者・地域の人々など様々な人にかかわり、支えられながら、自らの未来を見出し、未来を切り拓いていくための基礎を培い、生き生きと学び、思いやりの心とたくましく生きる力の育成を目指して、上記の教育目標を設定する。

「人にやさしさ」とは、自分を取り巻く人々や自然との様々なかかわりにおいて、相手を自分と同じようにかげがえのない存在であることを理解し、思いやりながら、共に生きていこうとする姿。「自分につよさ」とは、深く考え、自ら学び、自らの言動に責任をもち、困難なことや未経験のことに会ってもくじけず、最後まで取り組むことのできるたくましい姿。この二つは、表裏一体の関係で、「優しいからこそ強く、強いからこそ優しい」

#### くせ巻計

- (1) 学校教育のあらゆる機会を通して人権尊重の精神の涵養に努める。
- (2) 幼小連携、小中一貫の教育を推進するために、多様な交流を図る。
- (3) 個に応じた学力の向上を目指して授業改善に努め、授業時数を確保し授業内容を充実する。
- (4) 特別支援教育についての理解と啓発を図り、教育内容を更に充実させると共に、通常の学級においても特別支援教育の必要な児童への推進と充実を図る。
- (5) 食に対する児童の意識を高める食育の指導を充実し、健康教育を推進する。
- (6) 心身の健康の保持、基本的な生活習慣改善のために、開かれた学校づくりと家庭・地域社会と連携し、健康教育、環境教育の充実を図る。

#### 幼小連携と小中一貫を視野に入れた教育の推進

○就学前教育から義務教育に至るまでの基本的な学習規律や生活習慣を「久我山っ子スタイル」として示し、教室移動の際の並び方や歩き方、学習の準備や姿勢、返事、話の聞き方等を徹底して指導し、学習に集中して取り組み「自信をもって、自らの人生を切り拓いていく子供を育てる」教育を推進する。

○週2回のチャレンジタイムでは、国語や算数の基礎・基本の習熟を図るためにドリル学習を中心に行い、学期末には漢字、計算のまとめを行う。

○家庭学習の習慣化のために、学年に応じた家庭学習課題を設定し、家庭と連携・協力して取り組む。

#### 「いのち・環境」を見つめ、考え、実践する教育の推進

○身近な自然とのふれあいや環境を守るための取り組みを意図的・計画的に取り入れた環境教育を推進する。【校内研究：生活科・総合的な学習の時間】

○「いのちの日」の授業のさらなる充実のために、「いのち」に関わる図書コーナーの設置や教材開発に取り組む。

#### 多様な人、もの、体験を生かした教育の推進

○多様な読書活動による感受性豊かな心の育成を図る。

「読書活動」

○幼児との交流活動により下学年をいたわる心を育てる。

「幼小連携」

○地域人材の活用によるキャリア教育の推進により、未来に向けての自己実現を図る。

「キャリア教育」

○体育的活動の日常化により、体力向上に努める。マラソンタイム、縄跳び月間、体育集会

「体力向上」

○多様な学校給食、身体測定時・給食時における栄養指導により、食に対する正しい理解を図る。

「食育推進」